

世界遺産登録に向けて

西三川砂金山(17) —「金入り」と砂金の上納—

毎月29日に、西三川金山役所へすべての稼場の金児たちを集めます。

役人は、今まで預かっていた砂金が入った紙包みを、稼場ごとに金児に戻します。そこで、紙包みの封印を両者で改め、開封して中身を確認し、磁石を使って混ぜている砂鉄を取り除きます。また、中には見落とし、砂も混ぜられている場合があるので、丁寧にこれを除きます。さらに、湿り気も重量に影響を与えるので、紙包みをあぶって湿り気をとって、最終的に天秤で砂金を測り、帳面にその量を記録します。最後に、確認のため金児が帳面に印判を押し、これで支払勘定が確定します。これを「金入り」といいます。この砂金の半分が上納分で、金児は残り半分の代錢を受け取るようになります。

翌月2日、西三川の金山役は、この砂金を奉行へ納めるため、相川に向け出発します。3日朝、金山役は奉行所に出頭し、「砂金揚高人別小前帳並砂金買上代錢請取手形」を役所に提出します。そして、筋金所に行つて、御目付役立会の上、封印をしてある紙包みに異状がないことを

確認し、開封します。そこで、再度役所備え付けの磁石で砂鉄が混ぜていないか調べます。中身の砂金を改めてから、筋見役が厚紙でこれを2重に包み、砂金の確定量を上書きします。裏側には、関係の役人が記名して印を押し、翌日まで筋金所が預かります。

4日朝に、砂金の包みを筋金所から御金蔵に移します。そこで、組頭が立会い、包みの砂金を再度改め、「砂金請取証文」が渡されます。西三川金山役は、この証文と引き換えに、御金蔵で金児に渡す砂金の代錢を受け取り、5日に西三川へ戻ります。



「金入り」の場面 「西三川砂金山稼場図」より(新潟県立歴史博物館蔵)

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-51336

地域おこし協力隊の活動を紹介します



さいとう ちさと 斉藤 千里さん

配置地区 島内全域

河原田本町商店街

配置時期 平成27年3月着任

出身地 埼玉県狭山市

佐渡市・配置地区の印象

「360度どこへ行き着いても海」これが私の佐渡の印象です。海は一つのはずなのに、島内各地で、海の表情が違う事が、特に印象的で興味深いです。

担当地区の佐和田の海は、穏やかで心地よい波の音が聞こえる場所。水平線に沈む夕日を最後までゆっくりと見送れることが素晴らしいなと感じています。

配置地区(佐和田地区)での活動等

佐和田には多くの人が集まってくるのに、地域おこし協力隊は必要？と思う方もいるかもしれません。人が集まり色々と便利な佐和田ですが、

その反面、悩み事も浮上しています。私はその悩み事を解決するお手伝いを活動として行っています。

具体的には、同地区にある「河原田本町商店街」に賑わいが戻るためには、何が必要かを商店街の方々と模索しています。個店と商店街全体が、同じ方向に向かないと、答えを見つけない問題です。現状を知るためのアンケートを行い、その内容を受け止め、意見を形にする計画を立てました。今年からその計画を実施するための活動を行っていきます。

今後の抱負

この3月で着任から1年が経ちます。昨年は、全てが初めてで「知ること」に感動していました。人と出会うことで、佐渡の良さをまた一つ知る。今後も佐渡の方と多く出会い、色んなことを学んでいきたいです。また、今年は、「知ること」から一歩前進「楽しむこと」でも感動を味わえる1年にしたいと思います。

◆市役所地域振興課地域振興係 ☎63-4152